



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

少し前のことになりますが、今年3月1日にミサトピア小倉病院は開設20周年を迎えました。2012年に篠崎名誉院長の指揮の下に10周年記念事業を催したのですが、あれから10年も経ったのか、と思うと正に「光陰矢の如し」です。コロナ禍のため多くの人が集まるイベントは難しいので、半年ほど前から20周年記念事業プロジェクトチームを立ち上げ、状況の許す限り心に残るイベントにしよう、と活発な意見交換を行いました。レクリエーションとして患者さんの射的ゲームと職員の商品当選をリンクさせたビンゴゲームを考案したり、患者さんと全職員に20周年記念オリジナルタオルと開運堂のどら焼き、特別食の患者さんにはプリンをプレゼントしました。そして食事療養部から行事食として握り寿司が振る舞われ、夜には花火を打ち上げました。なかなか盛り沢山で楽しい日であったな、と思い出します。

さて、コロナ禍のため議論が縮小した感はありますが、地域医療構想は医療の将来にとって避けられない課題です。当院のような精神科療養病床という構造の病院は、精神科の「収容医療という負の遺産」のように取り扱われることが少なくありません。今後も10年、20年と末永く地域に必要とされる医療機関でありたいのなら、そのニーズに合わせて少しずつ姿を変えていく必要があると考えています。

紅葉散歩



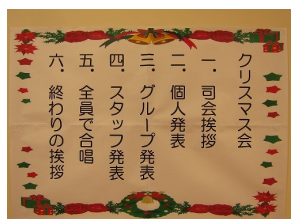
11月4日、2-2病棟では、病院駐車場と小倉ホームの周りの散歩に出かけました。紅葉とイチョウが、綺麗に色づいており少し肌寒い中での散歩となりました。患者さんたちの表情も良く散歩を楽しんでいて、特に小倉ホーム近くのイチョウ並木には「立派だね」「綺麗だね」という声が聞かれました。景色を楽しんだ後は、紅葉した木々の前で、笑顔で写真撮影を行いました。

さつまいもレク

2-2病棟では、11月にさつまいもレクが行われました。蒸かし芋をつくり、輪切り、みじん切り、砂糖と牛乳を加えペースト状にしたもの3種類用意し、食形態ごとに患者さんに提供しました。さつまいもの試食は、毎年楽しみにしている患者さんもいて、みんな美味しそうに召し上がられていました。



クリスマス会①



12月22、23日に、病院行事としてクリスマス会が行われました。病院全体での行事は難しく、各病棟単位での実施となりました。患者さんの個人発表と、グループでの紙芝居、スタッフの発表が行われました。1-1病棟では、スタッフによる紙芝居『愛染かつら』の発表、グループ発表のハンドベル演奏、患者さんでの北国の春、三六五歩のマーチの合唱を行いました。

個人発表では、日々努力している個人OTの作品についての発表、ダンスの発表、歌の発表などを行いました。発表に向け1ヶ月前から原稿の用意や練習を行い、当日は緊張しながらも一生懸命に発表されており、どの発表も気持ちがこもった素敵なものでした。



クリスマス会②

グループ発表では、各病棟ごと5人程のグループで紙芝居の発表を行いました。発表する紙芝居についても、クリスマスに関連した紙芝居の中からグループ内で話し合い選びました。個人OTや、空いている時間を使いグループで集まって繰り返し読む練習を行い、本番に臨みました。当日は練習の成果が発揮され、どの病棟も練習よりも上手に発表することができていました。紙芝居について「また来年もやりたい」「緊張したけど上手く出来た」等の声が聞かれ、いい思い出になった患者さんもいらっしゃった様子でした。



お花見レク

4月の2週目の桜の見頃の時期に、各病棟ごと病院駐車場でお花見をしました。車椅子の患者さんには、1人ずつ職員が付き添い安全に配慮しながら時間をかけて桜を見て回りました。患者さんからは、満開の桜を見て「綺麗だね」「空気が気持ちいいね」などの感想が聞かれ、皆さん普段よりも良い笑顔が見られました。景色を堪能した後は、笑顔で記念撮影を行いました。



七夕レク

7月の第1週目に、2-2病棟ではビンゴ大会、2-3病棟では輪投げゲームレクを行いました。また各病棟で短冊へ願い事を書き、笹の飾り付けをしました。2-3病棟のゲームレクは、夏祭りを意識した輪投げのゲームを行いました。応援の声や、拍手が聞かれ温かい雰囲気ゲームが進んでいきました。患者さんからは「緊張した」「夏祭りみたいで楽しかった」等の感想が聞かれました。

おやつの中には、星型の牛乳寒天が乗った七夕ゼリーが提供されました。「見た目が夏らしくていいね」「美味しかった」と感想が聞かれました。



文化祭①



5月25日、26日の2日間で病院行事として文化祭が行われました。今年も去年に引き続き、病院全体での行事は難しく、各病棟単位での実施となりました。体育館内にて個人作品・壁画展示、喫茶コーナー、フォトスタジオコーナー、心ぼかぼかアート（協同作品展示）の4つを行いました。

個人作品・壁画の展示のコーナーでは、自分の作品から他病棟の作品までじっくりと見て回っている方が多く「〇〇さんのこの作品が素敵だった」等、他の患者さんの作品を褒める声が聞かれたり、自分の作品を褒められてうれしそうにしている様子「次はこれをやってみたい」等意欲的な声が聞かれました。

喫茶コーナーでは、メニュー表のコーヒー、紅茶、コーヒーフロート、クリームソーダ、レモネード、レモンスカッシュから1つ選んでいただき、その場で患者さんに提供しました。「おいしい」の音が何人もの患者さんから聞かれました。



文化祭②

フォトスタジオコーナーでは、お気に入りの服を着て来ていただき、女性の方は口紅、チーク、アイブローのメイクを施し、好きな背景を選んでいただき写真撮影を行いました。出来た写真は、写真用紙にプリントアウトし各部屋に飾らせていただいています。心ぼかぼかアートでは、患者さん、スタッフ対象にハート型のカードに「私の夢」について記入してもらい、それを集めて鳩と虹とクローバーの壁画を作りました。コロナ渦で、病棟単位での実施となりましたが、全病棟分のカードが1つの絵になった作品を見て、病院全体のつながりや人の温かさを感じて頂けるような作品となったのではないかと思います。



小倉病院開院20周年



本年3月1日は、2002年に小倉病院が開院し、20年の節目でした。これを記念し、院内では20周年記念行事が行われました。患者さん向けの催しでは射的大会があり、全員に記念のロゴ入りタオルが配布されています。また、昼食に握りずし、おやつには「祝」の焼き文字入りどら焼きが振る舞われました。日が落ちて辺りが暗くなった所で、敷地内の3ヶ所で、10分間で300発の花火が打ち上げられ、記念日のフィナーレとなりました。今後も長く当院が続いていきますよう祈念しつつ、職員・患者さんが一体となって楽しんだ一日でした。



令和4年度新年度式



4月1日（金）に 例年と同様に、新型コロナウイルス感染予防対策として、出席職員の間隔を広くとる等の配慮をして、城西医療財団理事長・総長と桑村院長の訓示が行われた後、新入職員5名の紹介と1名の昇格人事の辞令交付が行われました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

今回37号は、増ページでお送りしています。地域では1月・2月と感染者が爆発的に増え、院内の感染対策としてできる限りの委員会の縮小が求められていたため、当委員会では広報紙発行に至りませんでした。しかしながら、それらの対策あって院内の患者さんに於いてはひとりの感染者も出ることなく現在を迎えています。窓越し面会とはいえ、ご家族との対面面会も再開されています。タイムリーにお伝えできなかったものも含め、広報紙を通して院内の様子をご確認いただければ幸いです。